



ふれあい工房後援会便り

第43回 令和2年8月10日 発行

指定障害福祉サービス事業所

ふれあい工房

第2ふれあい工房

電話 0846-67-5666 電話 0846-67-5117
FAX 0846-67-5667 FAX 0846-67-5118

新しい生活様式と障がい者支援



ふれあい工房 所長 池本善典

日々暑さが増し、マスクのわずらわしさも同時に増しております。一旦は落ち着きかけた新型コロナウイルスは、再び勢いを増して全国に拡大を始めました。この得体の知れない、目に見えない怪物との戦いは一体いつまで続くのでしょうか。スタッフは3密を避け、施設内外の換気・消毒に明け暮れる毎日です。

そうネガティブに考えると底なしに暗くなってしまうかもしれませんが、コロナ禍も悪いことばかりではないと思うようにしています。例えばこれまで法人や事業所で行っていたほとんどの会議が自粛期間中は中止となりました。その代わりに本当に必要な会議や研修会は何かを考えられるようになりました。

本当に必要な会議や研修会を、3密を避けてWEBを活用して行っていく。これまでもやろうと思えば出来ていたことを可能とするキッカケをコロナ禍は作ってくれました。ウイズ・コロナ時代・・・ポジティブに捉えて、新しい障がい者支援の生活様式(ニューノーマル)の構築に取り組んで行こうと思います。



コロナ対策と新しい生活様式の実践

『手洗いの強化』



ご利用者に手洗いの手順を、写真で分かりやすく解説したツールを作成しました。



『ソーシャルディスタンス』



フレスタにあるベーカリーショップ『HOGALAKA』では、レジ前でディスタンスを取ったり、ビニールシートの貼り付け等、対策を行っています。

『ネットの動画活用』

グループホームでは、外出自粛での運動不足解消と余暇の充実を工夫しています。インターネットを活用してユーチューブの動画を観ながら体操やダンスを楽しんだり、いつでもお笑い動画や映画、コンサート鑑賞ができるようにしています。

『WEB会議・研修』



これまで当たり前で大勢で集まっていた会議や研修の有り方を見直しました。参加人数が10名を越える会議は、Zoom等を活用して運営しています。これからは必須のツールになりそうなので、慣れて行きたいです。



～感謝～ 送迎車が新しくなりました！(共同募金民間福祉団体配分金)

2005年から送迎車として活躍してくれていた旧ハイエースですが、走行距離は28万kmを越え、ここ数年は老朽化が進んでいました。

それに伴い、令和2年7月30日に新しいハイエースが送迎車としてふれあい工房に納車されました。今回の整備事業の一部を広島県共同募金会様より『共同募金民間福祉団体配分金』という形でご支援頂きました。



多機能型を活かした日中活動



生活支援課 課長 山中 武

ふれあい工房生活支援課は現在、重度の障がいのある方が利用する『生活介護事業』、主にパン作りを通してご利用者の就労場を支援する『就労継続支援B型事業』の2つの事業で構成されています。(多機能型)

今年度から上記の2事業の一体的運営を強化し、ご利用者がこれまで以上に多くの選択肢の中から活動を選ぶことが出来る体制が整いました。活動の選択肢が広がることで、新たな成長のチャンスが生まれます。



ソーシャルスキルトレーニング



卓球



心身を整える
ヨガ療法



権現山を歩く



創作活動



パン作り、販売、清掃等の就労活動

療育音楽や作業療法等の専門家の方も関わってくれます！



体を動かすメニューも沢山あるのでうれしいです！

今年もブルーベリーの収穫頑張ってます！



第2ふれあい工房 (農作業、食品加工部門)

就労支援課 課長 平本雅也

7月上旬から本格的にブルーベリー収穫が始まりました。お客様より、主に贈答用として生食ブルーベリー約400kgのご注文を頂いております。暑い中での作業になりますが、日々収穫、選別、出荷に励んでいます。ブルーベリー収穫時期には、ふれあい工房各課からの応援や、ふれあい工房家族会による選別作業のご協力があり、ご注文頂いた生食ブルーベリーを出荷することができました。これから8月中旬頃までブルーベリーの収穫は続きます。ブルーベリージャムやソースの材料となる加工用ブルーベリーを収穫していきます。

第2ふれあい工房就労支援課食品加工班が作っている、ブルーベリージャムやソースをお客様に安心して買って頂けるように、これからもご利用者、職員が協働して頑張ります。



ブルーベリー収穫作業の様子



ブルーベリー出荷作業の様子



加工用ブルーベリー洗いの様子



ブルーベリージャム製造の様子

